

平成
27
年度

ふかや・ふれあい 人権セミナー

期 日 平成27年10月18日(日)
会 場 深谷市花園文化会館 アドニス

さわやかな秋晴れとなった10月18日(日)、平成27年度ふかや・ふれあい人権セミナーが深谷市花園文化会館アドニスにおいて開催され、約450人の皆さんが秋の1日を楽しみました。

このセミナーは、市民が基本的人権を尊重し、主体的に学習を進めることを目的に実施しています。

当日は、童謡を歌う会の合唱によるオープニングセレモニー、続いて、市内小中学校児童生徒による優秀人権作文の発表がありました。

また、講演会ではタレントのダニエル・カール氏をお迎えし、「人にやさしい ひとつくり・街づくり」と題し、学生時代にホームステイしたことや、文部省英語指導主事助手として再来日、山形県に赴任して以降の日本での経験、母国アメリカ合衆国と日本の文化の違いについてなど、おなじみの山形弁を交えながら多岐にわたりお話をいただきました。



●童謡を歌う会による合唱 ●優秀人権作文発表 ●講演会 ダニエル・カール 氏

人権ビデオライブラリー

悩まずアタック!
脱・いじめのスパイラル
ぼくの青空

法務省主催「全国中学生人権作文コンテスト」で法務大臣政務官賞を受賞した『いじめのスパイラル』をドラマ映像化した作品。
実際にいじめにあって悩み苦しんだ女子中学生が、何とか周囲の人々に悩みを告白するきっかけをつかみ、いじめ問題を解決していくという内容です。

難病・筋ジストロフィー患者の大久保義人さんが、わずかに動く口を使ってワープロを打ち、またはご家族や病院職員の方々の口述筆記により、大久保さんの闘病生活を綴った『僕の青空』が原作。「障害者も生きているんだ、とういことを普通の人のように、多くの人々に理解してほしい」という大久保さんの思いが、子どもたちにも伝わるようアニメ化された作品です。

様々な人権学習にお役立ていただくため、人権啓発映画(DVD)の無料貸出しを行っています。
また、地域・サークル団体等での人権研修会への講師派遣も行っています。ぜひ、ご利用ください。

問合せ 深谷市協働推進部人権政策課
電話:048-574-6643 FAX:048-501-5222
E-mail:jinken@city.fukaya.saitama.jp

無料相談

困りごとがありましたら、無料相談をご利用ください。

相談名	問合せ	とき	ところ
よろず人権相談 生活全般で感じた人権上の困りごとや悩みなどの相談	人権政策課 ☎574-6643	事前予約も可 毎月10日・25日 午前10時～正午、 午後1時～3時 (土・日曜日、祝日 の場合は翌開庁日)	市役所 西別館会議室
女性の悩み相談室 仕事・家庭・夫婦の悩みなどの相談	男女共同参画 推進センター (L・フォルテ) ☎573-4761	予約制 毎月第1・3水曜日 午前10時～正午 午後1時～午後3時	キララ上柴3階 ミーティングルーム2
DV問題法律相談 配偶者やパートナー、 恋人からの暴力などDV 問題の法律に関する相談	男女共同参画 推進センター (L・フォルテ) ☎573-4761	予約制 奇数月第3木曜日 午後1時30分～4時	キララ上柴3階 ミーティングルーム2

※ 上記のほかにも様々な相談窓口があります。
詳しくは「広報ふかや」をご覧ください。

すみよい深谷市をつくるために

忠 恕

私たちの社会では、女性、子ども、高齢者、障害者等をめぐる様々な人権に関する取組が重要な政策課題になっています。これらの人権に係わる様々な課題の解決に向けて、深谷市では深谷市人権教育推進協議会と連携し「市民に人権知識の普及を図り、21世紀に人権尊重社会を実現すること」を目指して人権教育の推進に取り組んでおります。



深谷市人権教育推進協議会
会長 國吉 眞弘

『冷暖自知と人権』

「冷暖自知」とは、仏教の禅の悟りの境地をいった言葉で、「冷暖自ら知る」と読み下します。この言葉の意味は、水の冷たい暖かいは、飲んだ者が分かるということです。自分にかかわることは、他人から説明されなくても自分がよく知っているということでもあります。

「冷暖自知」を、私たちとかかわりのある人権擁護に置き換えて考えますと、差別やいじめ、虐待などからくる苦しさ、辛さ、痛みは、これらを経験した本人でなければよく分からないということではないかと思えます。

私たちが、これまでに同じような苦しみを受けてきたことがあれば、他人の苦しみを容易に自分のこととして受けとめることができるのですが、ほとんどの人が過去にこのような経験をしていることはないと思います。

したがって、他人の苦しみを知らない私たちにできることは、できるだけ相手の立場に寄り添って、その苦しみを理解することではないかと思えます。そのためには、私たち一人一人が柔軟な感受性と鋭敏な想像力を養うことが必要となりましょう。

相手の立場に寄り添って、その苦しみを理解して行動できる人のことを、人権感覚を身につけた人ということが出来ます。人権感覚を身につけることは、なかなか難しいことです。

ここで、病気見舞の場で人権感覚のことを考えてみたいと思います。

第5号
平成28年3月
発行：深谷市・深谷市教育委員会
深谷市人権教育推進協議会
事務局：深谷市協働推進部人権政策課
〒366-8501 深谷市仲町11-1
TEL (048)574-6643 FAX (048)501-5222

目次

人権教育推進協議会会長あいさつ	P1
視察研修会(予科練平和記念館)	P2
男女共同参画社会を考えよう	P3
平成27年度ふかや・ふれあい人権セミナーほか	P4

病み伏して普通の人が羨まし 蓮雄
上の句は、病床に伏している人が心情を述べている川柳です。病気見舞に出かける人の多くは、病者の苦しみを自分自身の苦しみとして受けとめることは困難です。病気見舞の際は、つい、何げなく、昨日あったゲートボールのことやグラウンドゴルフでの楽しかったことを話したりします。この話を聞いた病気の人は、心底から健康者の人を羨ましく思い、わが身を嘆くことになるでしょう。病気見舞に出かけ、病者を嘆かせることは何としても避けたいものです。

人権感覚を身につけている人のことを、言葉を換えれば「思いやりの心」、「忠恕の心」のある人のことだと思いますが、生まれながらにして、そういう心の持主はそうはいないものです。

そして、抽象的に他人には「思いやりの心」、「忠恕の心」で接するように言われても、どのような相手に、どのような場面で、「思いやりの心」で接するのかについては、学ばなければわからないものです。人権を理解するだけでなく感覚として身につけてもらうための学習の機会を提供していくのが人権啓発ということになります。

深谷市人権教育推進協議会では、人権啓発の一環として、毎年「ふかや・ふれあい人権セミナー」、パンフレットやリーフレットの配布、人権教室の開催など様々な人権啓発の活動を行っています。市民の皆様が、このような活動に参加したり見聞したりして、人権感覚を身につけていただくことを期待しています。

「冷暖自知」を人権の場に置き換えて考えてみれば、「思いやりの心」、「忠恕の心」に行き着いてしまいました。21世紀がテロや戦争とは、きっぱりと手を切り、「人権の世紀」にふさわしい日本、世界を築いていきたいと思えます。

人権啓発標語・ポスター

人権週間(12月4日～10日)の行事として、Lフォルテ(アリオ深谷3階)において、市内小中学校児童生徒による人権啓発標語・ポスター展を開催しました。ここでは、応募のあった172点の作品の中から、会長賞を受賞した4点の作品を紹介します。

標語

やめようよ
いえる勇気が
明日を変える

幡羅小学校5年
橋本 美空さん

ポスター

声がけが
いじめをなくす
第一歩

南中学校1年
室久保 志穂さん

その書込みで、
傷つく相手が
いませんか?

藤沢小学校6年
新井 真衣さん

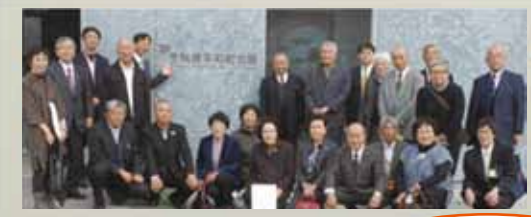
新しい言葉がめぐる
世界を作ろう!

深谷中学校1年
二宮 慎さん

予科練平和記念館視察研修会(平成27年11月13日)

人権教育推進協議会理事、人権擁護委員深谷部会、男女共同参画会議委員が参加し、予科練平和記念館(茨城県阿見町)で視察研修会が開催されました。

「空」をイメージして造られた記念館



解説員の方が熱心に説明してくださいました。

予科練平和記念館

茨城県阿見町は、大正時代に霞ヶ浦海軍航空隊が開隊され、昭和14年には予科練が神奈川県横須賀市から移転されました。終戦まで全国の予科練教育・訓練の中心的な役割を担うことになりました。平成22年に「予科練」の歴史と阿見町の戦争の歴史を保存・展示するとともに、次の世代にこの事実を正確に伝承し、命の尊さや平和の大切さを考えさせるために設立されました。

予科練での厳しい生活や訓練、教育の様子が展示されています。



壁面に記された平和の願い

20世紀は戦争や紛争によって1億人以上の人々が命を奪われました。たった100年間に日本の人口と同じくらいの命が失われました。今、私たちが生きている世界はこうした多くの犠牲の上にあるのです。国のために命を捧げた純粋な若者たちの気持ちを忘れないでください。今この瞬間にも苦しんでいる人々が世界にいることを忘れないでください。私たちは生き抜かなければならない。戦争のない平和な世界と命の重さを考えながら

予科練とは

海軍飛行予科練習生の略称です。14歳半から17歳までの少年を全国から試験で選抜し、搭乗員としての基礎訓練を行い、15年間で24万人が入隊しました。卒業した2万4千人のうち1万9千人の方が戦死しました。予科練生は、「七つボタン」の制服を着ていて、当時の子どもたちのあこがれでした。

特攻とは

特別攻撃のことで、飛行機に爆弾を積んで、敵の軍艦などに飛行機もろとも体当たりする攻撃のことです。ゼロ戦やその他の飛行機に爆弾を積んで、祖国を守るために勇敢に軍艦などに体当たりしていきました。また飛行機がなくなってくると、爆薬を積んだモーターボートや魚雷に乗って攻撃しました。この特攻作戦で、予科練卒業生が約3千人戦死しました。

当時の予科練生の日課の一例

日課	冬季の時間 (10月~5月)
起床	6:00
朝礼・体操	6:15
朝食	7:15
授業	8:00~12:00
昼食	12:00
授業	12:55~15:30
夕食	16:15
自由時間	夕食後~18:10
自習	19:00
掃除	20:55
点検・就寝	21:00

当時の予科練生の時間割の一例

時間	月	火	水	木	金	土
1	道徳	国語	国語	歴史	数学	カッター
2	理科	航空	数学	理科	英語	カッター
3	理科	数学	通信	軍事	軍事	カッター
4	通信	英語	航空	数学	理科	武道
5	通信	軍事	武道	理科	武道	
6	体育	体育	地理	体育	理科	

カッターとは、14人乗りボートのこと



男女共同参画
社会を考えよう

笑顔と感謝で ワーク・ライフ・バランスを



春風亭鹿の子師匠

師匠は、東京都墨田区の出身。現在、子育て真っ最中の一児の母。平成8年春風亭柳昇師匠に入門。江戸落語の伝統的な男性社会で、厳しい前座修行を経て、平成13年2月に、二つ目に昇進。平成22年5月に真打ちに昇進。若手女流落語家として、また、講演では、男女共同参画などのテーマで幅広く活躍しています。今回「忠恕」編集委員も参加し講演をお聞きしました。

春風亭鹿の子師匠のお話

11月28日(土)L・フォルテを会場に、深谷市男女共同参画推進センター主催による、「私らしいワーク・ライフ・バランス」と題し、落語家の春風亭鹿の子師匠を講師に迎えての講演会がありました。

当日は、70名程の参加者があり、現在に至るまでの鹿の子師匠自身のお話や仕事と家庭のバランスの大切さをユーモアたっぷりに語っていただき、楽しい講演会となりました。



女性が働くことの難しさ

江戸落語は伝統的な男性社会で、現在の落語家の数は、およそ男性690名、女性10名。平成8年に、鹿の子師匠が入門した当初は、女性用トイレも更衣室もありませんでした。見習い、前座、二つ目、真打ちとはっきり分かれています。中でも二つ目時代が一番厳しかったとのことでした。

イクメンに変わった夫

10年ほど前に結婚し、まだ修行中の身で子どもを授かった鹿の子師匠は、落語と育児の疲れからサラリーマンの夫に当たってしまったとのことでした。

しかし、夫はそれをしっかり受け止めてくれ、見事にイクメンに変わりました。講演の中で話された川柳「**愚痴が減り 笑顔が増える 家事分担**」のように、社会では男女が平等に認められ、家庭では夫婦が家事・育児を分担し、女性が仕事と生活を調和させたワーク・ライフ・バランスを生き生きと送れる社会を目指しましょう。



人に感謝し、言葉で伝えることの大切さ

「いつまでも若々しくいるために、笑顔と感謝の心が大切です」と講演の中で、話された言葉や笑顔をつくるための体操が印象に残りました。

講演を聞き終えて、お互いに表情豊かに「ありがとう」と感謝の言葉を伝え、社会参画をする女性が増え、男女の性別を越えて協力し合い、男女共同参画社会に向けて、家族や地域の人々の意識が変わることを期待したいと思いました。人権啓発標語の中に『**あいさつは心を結ぶ第一歩**』という標語がありました。

まず手はじめに、身近な人たちに明るくあいさつをしてみませんか？

講演会に参加して

☆鹿の子師匠は、東京下町に生まれ、「ひ」と「し」の区別ができず、小さい頃苦労したため、女性として江戸弁でもよい落語家を目指し、達成しすごいと思いました。また、男性中心の落語界での苦労が、男女共同参画社会の先駆者となったのだと思いました。

☆好きとは言え、自ら男性中心の落語界に入っていく、本人の努力はもちろんサラリーマンの夫の協力で真打ちになったことはすばらしい。男女共同参画社会には、男性の意識が家庭に向くことが大切だと思いました。

☆顔ヨガが面白かったです。ナチュラルキラー細胞を増やすために、夫婦で家事分担して笑顔で笑いの絶えない家庭にしていきたいです。

☆鹿の子師匠の講演と落語を聴き、心の底から笑いました。「夫婦円満の秘訣は、文句や苦情を言わず嫌なことを吐き出すこと。ただし、夫への感謝の言葉と笑顔を忘れずに」という素敵な話に感動しました。